

## 一般論文

# 幼稚園の集団生活における音楽使用

## —A幼稚園の観察と教諭インタビューを通じて—

### A study on the use of music in kindergarten :

### From observations of kindergarten class and interviews of kindergarten teachers

伊藤 里恵<sup>1</sup>, 山内 紀幸

ITO Rie, YAMAUCHI Noriyuki

## 概要

本研究では、2歳児から5歳児までの保育を行っているY県A幼稚園での観察や教諭のインタビューを通じて、年齢ごとにどういった場面でどのような音楽が使用されているかを明らかにしていくものである。全年齢を通じて、登園時、自由保育、集団保育（入室、活動、休息、給食、歯磨き、紙芝居）などの活動の場面が変わるごとに音楽が使用されていた。集団保育の活動では、2歳児、3歳児において頻繁に音楽が使用される傾向にあり、年齢が上がるごとに徐々に音楽の量が減少していた。インタビューからは、2歳児では集団生活の切り替えや促しのために、3～5歳児では探究活動や行事との関連をもたせるために、音楽を使っていたことが明らかとなった。

## I 研究目的

保育現場では、季節の歌や童謡、手遊びなど、音楽に触れる機会がある。音楽が幼児の表現力を高め、情操を豊かにすることは、よく知られている。しかし、保育現場における音楽使用は、それだけにとどまらない。子どもたちが集団生活を円滑に行ったり、次の活動にスムーズに移ったりするために、音楽が使用されることがある。例えば、BGMを使用して、子どもたちが休息に上手く移行していけるようにしているケースなどがある。保育現場における音楽教育とは別に、園の日常生活で使用される音楽は、どのように使用されているのだろうか。

これまでに、幼児の生活場面における音楽利用については、あまり注目されてこなかった。幼児期の音楽といえば、幼児の音楽表現活動とその指

導法が重要な研究対象とされてきたためと思われる。数少ない研究では、日常の音楽の効果や音楽が用いられる場面、曲調、楽器に着目した研究がある（柳ほか2007；伊豆ほか2008）。こうした研究においては、集団生活を営む上での規律化の視点からの音楽使用が想定されている。しかし、集団保育における音楽利用は、果たして規律化だけを目的として行われているのだろうか。さらには、幼児の年齢によっても、音楽利用の形態は異なってくるはずである。

本研究では、2歳児から5歳児までの保育を行っているY県A幼稚園での観察を通じ、年齢ごとにどの場面でどのような音楽が使用されているかを解明していくことを目的としている。併せて、幼児の集団保育で使われている音楽について、どういった意図をもって行われているのか、教諭へのインタビューを通じてその一端を明らかにしていきたい。

<sup>1</sup> 城北幼稚園教諭

## II 研究方法

- (1) 観察対象：Y県内にあるA幼稚園に在園する保育者と園児（2歳児・3歳児・4歳児・5歳児）  
インタビュー対象：Y県内にあるA幼稚園の各学年リーダー4名
- (2) 調査期間：実施期間：2019年5月～2019年7月の間に半日観察12回、インタビュー3回、計15回記録を行った。
- (3) 記録方法：クラスの集団保育での保育者と子どもとの関わりを観察し、フィールドノートおよびDVCで記録した。インタビューはフィー

ルドノートで記録した。後日、観察記録の内容を書き起こした。

- (4) 分析方法：書き起こした観察記録から、音楽を用いて集団保育の促しがされていると認められる事例を16事例抽出した。また、観察とインタビューのフィールドノートを基に、事例の各場面を幅広く見て年齢ごとの表を作成した。

## III 研究の結果と考察

### 1 2歳児の音楽使用

- (1) 排泄の場面（2歳児の事例）  
2歳児の排泄の場面における事例は、表1-1の通りである。

表1-1 2歳児排泄の場面（2019年6月24日）

保育者A	「楽しいことをする前に、みんなでトイレ電車を作って、みんなでトイレに順番に行きたいと思います」	声かけ
保育者A	「では青チームさん立ちましょう、ポン」♪音の合図	声かけ、ピアノ
子ども	青チームの子どもはその場に立つ	
保育者A	「お椅子をがっちゃんこ」	声かけ
子ども	青チームの子は椅子をしまう	
保育者A	「はいそれでは電車を作りまーす」	声かけ
保育者B	♪《かもつれっしゃ》のピアノを弾く	ピアノ
子ども	保育者Aの前に電車を作る	
保育者A	「おトイレ電車出発してもいいですか」	声かけ、ピアノ
子ども	まだ電車になっていない子も電車になる	
保育者A	「はい出発」	声かけ、ピアノ
保育者・子ども	♪「おトイレ電車しゅっしゅっしゅ〜…」と歌いながらトイレへ向かう	歌、ピアノ

2歳児の排泄の場面では、椅子から立ち上がる時に声かけとピアノの音の合図で行動を促していた。また、チームごと電車のように連なってから、トイレまで移動していた。その際保育者Aは整列するよう声かけをして、保育者Bがピアノで《かもつれっしゃ》の曲を弾き、子どもの行動を促す様子が見られた。しかしピアノは、子どもたちが整列している最中は前奏が繰り返し流れていて、移動の準備ができれば歌の部分弾きながら歌も

歌い、移動を始めていた。

2歳児は日常、どこかへ移動する時は電車のように連なって移動をしている。保育者は声かけと共に歌やピアノと一緒に用いて促しを行っている。

- (2) 給食導入の場面（2歳児の事例）

2歳児の給食導入の場面における事例は、表1-2の通りである。

表1-2 2歳児給食導入の場面（2019年6月24日）

保育者C	「さあ、お花ができるかな」	声かけ
子ども	手でお花を作り、手の消毒を待つ	
保育者B	♪《チューリップ》をピアノで弾く	ピアノ
保育者・子ども	♪《チューリップ》を歌う	歌
保育者A・D	子どもの手に消毒をして回る	
子ども	消毒をしてもらう	
保育者A・D	子ども全員に消毒をし終える	
保育者A	「手はお膝で待っていてください」	声かけ
保育者B	♪《手はお膝》のピアノを弾く	ピアノ
保育者・子ども	♪《手はお膝》の歌を歌って待つ	歌
子ども	手を膝において給食の配膳を待つ	
保育者A・D・E	給食を配膳する	
保育者B	ピアノを弾くのをやめ、子どもたちの様子を見る	
保育者C	「まだ手はお膝ですよ」	声かけ
保育者A	「さあそれではお手てをパッ」♪音の合図	声かけ、ピアノ
子ども	手を自分の前に出す	
保育者A	「はいそれではいただきますにします」	声かけ
保育者B	♪ピアノを弾く	ピアノ
保育者・子ども	♪「おてて、おてて、おててを出して～」	歌、ピアノ
保育者A	「ではいただきますのお歌を歌いましょう」	声かけ
保育者・子ども	♪手をたたきながら《給食の歌》を歌う	歌、ピアノ
保育者A	「ではおいしい給食を」	声かけ
子ども	「いただきます」	
保育者	「どうぞ召し上がれ」	声かけ
子ども（保育者）	「ありがとう」	

給食導入の際にも声かけを初めにしてから歌やピアノを使用していた。給食の前に子どもたちの手をアルコール消毒するため、手をお花の形にして歌を歌い、待っている時間も楽しく待てるようにしていた。

ピアノ・歌の使用と声かけの使用を交互に、たまに両方同時に行っていた。毎日使用している曲

で、保育者以外に子どもたちも歌を歌って楽しそうに待つこともできていた。

### (3) 自由保育の場面（2歳児の事例）

2歳児の自由保育の場面における事例は、表1-3の通りである。

表1-3 2歳児自由保育の場面（2019年6月24日）

保育者	♪ペープサートを歌いながら行う。	歌
	♪おたまじゃくし・かえるの歌	ピアノなし
	「みんなもやってみる？まずは男の子どうぞ」	声かけ
子ども	♪男の子は保育者を真似してペープサートを歌いながら行う。	歌
	他のコーナーにいた子もやって来る。	
	♪女の子は保育者を真似してペープサートを歌いながら行う。	歌
保育者	♪同じ歌で人形劇をする。	
	劇の中で「おはよう」という。	歌
子ども	劇中のかえるに反応して「おはよう」と挨拶をする。	

コーナー保育でかえるとおたまじゃくしのペープサートに子どもが色を塗り、遊んでいた。その様子を見た保育者がそのペープサートを使って遊び方の例を示した。そのあとに子どもたちに声かけをし、ペープサートをやってみることを提案していた。

コーナー保育のため、一部の場所で始めたことであったが、歌を歌うことで他のコーナーにいた子どもたちもペープサートのコーナーに集まって

いた。歌のみでピアノを使用していなかったが、子どもたちは大きな反応を示していた。活動でおたまじゃくしやかえのうたを歌っているため、知っている曲が聞こえてペープサートに興味をもち始めた子もいた。

#### (4) 紙芝居の場面（2歳児の事例）

2歳児の紙芝居の場面における事例は、表1-4の通りである。

表1-4 2歳児紙芝居の場面（2019年6月26日）

保育者C	♪ピアノを弾く	ピアノ
保育者	♪「お椅子を前にお椅子を前にお椅子を前にして座る」	歌
子ども	椅子を前にして座る	
保育者	♪「紙芝居、紙芝居、パチパチパチパチ、うれしい紙芝居、楽しい紙芝居、静かに聞きましょう」	歌、ピアノ
保育者A	歌いながら紙芝居台を子どもたちの前に移動させる 「今日の紙芝居は何が入っているでしょうね。 あ、やっぱり鍵がかかっています。みんなで魔法のおててで開けてください」	声かけ
保育者A・C	「では魔法の指を出して」♪音の合図	声かけ、ピアノ
子ども	人差し指を自分の前に出す	
保育者A	「では魔法の指にお粉をかけます。パラパラパラ～」	声かけ
保育者C	♪効果音	ピアノ
保育者A・C	「もう一度、そーれ」♪効果音	声かけ、ピアノ
子ども	自分の指に粉をかける真似をする	
保育者A	「では、ちちんぷいぷいぷいのえいで開けたいと思います」「おててを出して、大きな声で、さんはい、」	声かけのみ
保育者・子ども	「ちちんぷいぷいのえーい」♪効果音	声かけ、ピアノ
保育者A・C	♪効果音「開きました」	声かけ、ピアノ
保育者A	「ではみんな一緒に開けましょう。」	声かけのみ
保育者A	「さんはい、ひとつ、ふたつ、みっつ」と言いながら紙芝居入れを開ける。	声かけ、ピアノ
保育者C	♪効果音	
子ども	一緒に数を数える	
保育者A	紙芝居を読む	
保育者C	♪場面に合わせてピアノでBGMを弾く	ピアノ
子ども	紙芝居を見る 紙芝居が終わる	
保育者・子ども	「どうも、ありがとうございました」	
保育者A	「では紙芝居を閉めまーす。さんはい」	声かけ
保育者	「ひとつ、ふたつ、みっつ」♪効果音	声かけ、ピアノ
子ども	一緒に数を数える	声かけ、ピアノ
保育者A・C	「紙芝居さんばいばーい」♪効果音	ピアノ
子ども	「ばいばーい」	
保育者A	紙芝居を片付ける	

紙芝居前は、椅子を前にして座るという促しを声かけではなく歌にして伝えていた。その後の紙

芝居の台を持ってくる時も歌とピアノを使用して子どもたちを惹きつけていた。

紙芝居台を持ってきた後は声かけのみでたまに効果音を使用し、導入中、終始歌を歌っているわけではなかった。また、子どもたちが手で魔法を使うそぶりをしたり数を数えたりして紙芝居を開ける様子も見られた。保育者が一方的に歌ったり話しかけたりするのではなく、子どもたちも参加できるようにしていた。

紙芝居中は、紙芝居を読んでいない保育者が場面に合わせてピアノでBGMを弾いていた。こしょ

うをふる場面は軽やかな曲を弾いたり、亀が出る場面では《もしもしかめよ》を弾いたりしていた。紙芝居の最中は終始BGMが流れていた。

## 2 3歳児の音楽使用

### (1) 給食後の休息（3歳児の事例）

3歳児の給食後の休息の場面における事例は、表2-1の通りである。

表2-1 3歳児給食後の休息の場面（2019年5月21日）

保育者A 子ども	♪CDをかけ電気を消し、声かけをする 排泄を済ませる 自分の席で休息、みんなが揃うのを待つ	CD（オルゴール）、声かけ
保育者A 子ども	CDを止める ♪ピアノを弾く「お休み上手な〇〇君…」 自分の席で休息	ピアノ、保育者の歌
保育者A 子ども	♪「起きよ起きよお休み上手な素敵な素敵な赤の2組さん」 「はい」	保育者の歌、ピアノ
保育者A・B 保育者A 子ども	♪「お椅子を前にお椅子を前にお椅子を前にして座ろう」 ♪ピアノを弾く 椅子を前に向け、座った状態で歌を歌う	保育者の歌、ピアノ
保育者B 子ども	紙芝居を読む前に手遊び(始まるよったら始まるよ) 保育者の真似をしながら手遊びをする	手遊び
保育者B 子ども	「鼻の油をよくつけて一、いくよ一、さんはい」 「ちんぷいぷいのえーい」	子どもたち
保育者B 保育者A 保育者A	紙芝居 ♪場面に合わせてピアノでBGMを弾く 犬のぬいぐるみを使って歯磨きの話 (♪はをみがきましょう、はみがきじょうずかな) 翌日の歯科検診の話	保育者の話（時々歌を入れて話す） 保育者の話（歌なし）
保育者A 子ども	「お椅子を入れて立ちましょ」 椅子を入れて立つ	
保育者 子ども	「気を付け競争よーいどん」 「気を付け、ピ」 気を付けをする	声かけ（リズム） 声かけ（リズム）
保育者 保育者・子ども 保育者 保育者・子ども	「はい、ご用意」 ♪《お帰りの歌》 「さんはい」 「先生さようなら、お友達のみなさんさようなら」	声かけ（リズム） 歌、ピアノ、振り 声かけ

給食後の休息では、保育者がオルゴール楽曲のCDをかけながら声かけをし、休息できる雰囲気を作っていた。その後、保育者はCDを止めてピアノを弾き、子どもたちが気持ちを落ち着かせたり保育者に意識を向けたりできるようにしていた。

そして、休息から紙芝居に移る過程では、保育者が歌を歌って椅子を前に向けさせたり、子どもたちと一緒に手遊びをしたりしていた。紙芝居の最中はその場面に適した音楽を紙芝居を読んでいない保育者がピアノで弾いていた。

紙芝居後の話は、BGMなしで行っていた。しかし、その後の子どもの促しは、ピアノは使用しないもののリズムを付けた声かけを用いていた。

毎日同じ流れを行っているため、子どもたちもスムーズに行動することができていた。

## (2) 自由遊び後の朝の集り（3歳児の事例）

3歳児の自由遊び後の朝の集りの場面における事例は、表2-2の通りである。

表2-2 3歳児自由遊び後の朝の集りの場面（2019年5月20日）

保育者	♪CDをかける	CD、声かけ
子ども	子どもたちが排泄を済ませる	声かけ
子ども	自分の席で休息、みんなが揃うのを待つ	
保育者	「素敵な音楽聞こえるね」	声かけ
子ども	自分の席で休息	
保育者	CDを止める	
保育者	♪（ピアノを弾きながら）「お休み上手な〇〇ちゃん」	歌、ピアノ
保育者	♪「起きよ起きよお休み上手な黄の2組さん」	
子ども	「ちがーう」	
保育者	「あんまり上手だから黄組さんかと思っちゃった」	声かけ
保育者	♪「起きよ起きよお休み上手な素敵な素敵な赤の2組さん」	歌、ピアノ
子ども	「はい」	
保育者	♪「お椅子を前にお椅子を前にお椅子を前にして座ろう」	子どもたち
子ども	座った状態で歌を歌う	歌、ピアノ
保育者	♪おててでマネしましょう 「タンタンタン」等	
子ども	保育者のリズムを手でたたいて真似をする	
保育者	♪ピアノで歌の伴奏を弾く	ピアノ、声でリズム
子ども	座った状態で歌を歌う	ピアノ、歌
保育者	♪「お椅子を入れて立ちましょう」	
子ども	立つ	
保育者	♪ピアノを弾く	ピアノ
子ども	立って朝の歌を歌う(幼稚園の歌)	歌
保育者	歌い終わったら「気を付け、ピ」	声かけ(リズム)
子ども	気を付けをする	
保育者・子ども	朝の挨拶「先生おはようございます、お友だちのみなさんおはようございます」	声かけ(リズム)
保育者	「お椅子を前にお椅子を前にお椅子を前にして座ろう」	保育者の歌 (ピアノなし)

自由遊び後、心が落ち着くようにオルゴール楽曲のCDを保育者が流していた。保育者は、子どもの援助をしながら声かけをし、CDの曲を聞けるよう促していた。子どもが保育室に揃ったらCDを止め、声かけとピアノで休息を促す。休息終了の際には子どもたちに起きよう保育者が歌を歌っていた。その後も椅子を前に向けて座る促しも歌を用いていた。そして、意識を保育者に向け

られるようにリズム遊びを取り入れていた。季節の歌を歌った後は、ピアノは弾かずにリズムを付けての声かけのみで行動を促していた。

## (3) 主活動（3歳児の事例）

3歳児の主活動の場面における事例は、表2-3の通りである。

表2-3 3歳児主活動の場面(2019年5月20日)

保育者	遠足の話 ♪「遠足遠足もうすぐどこでしょねどこでしょね〇〇〇〇」	歌(ピアノなし)
子ども	遠足の話 ♪「お椅子を入れて立ちましょう」	声かけ(リズム)
保育者	椅子を入れて立つ	
保育者・子ども	♪CDを流す《あいうえおにぎり》(ダンス)	CD
保育者	♪ダンスを踊る	
保育者	CDを止める	
保育者	♪「お椅子を前にして座ろう」	声かけ(リズム)
子ども	お弁当箱の手遊び	手遊び
子ども	手遊びを真似する	
保育者	遠足の話	
保育者	♪ピアノを弾きながら声かけをする	声かけ、ピアノ(子犬のマーチ)、手拍子
女の子	♪ピアノのリズムで女の子前が出る	
女の子・保育者	名前発表	
保育者	♪ピアノを弾く	声かけ、ピアノ(子犬のマーチ)、手拍子
女の子	席に戻る(曲が止まったらその場で止まる)	声かけ、ピアノ(子犬のマーチ)、手拍子
保育者	♪ピアノを弾きながら声かけをする	
男の子	♪ピアノのリズムで男の子前が出る	
男の子・保育者	名前発表	
保育者	♪ピアノを弾く	
男の子	席に戻る(曲が止まったらその場で止まる)	
保育者	まとめの話、今後の話 ♪「お椅子を入れて立ちましょう」	声かけ(リズム)
	給食準備	

3歳児の活動では、遠足前であったため、話と話の間に遠足に関連した歌を歌っていた。その後も、遠足に関し、子どもたちも知っている曲でダンスをして体を動かしていた。体を動かした後は、再び椅子に座り手遊びをしていた。手遊び後は、子どもが保育室の前に出てきて名前の発表を行っていた。その子どもたちの移動の際、保育者はピアノで曲を弾いて待機している子どもたちも楽しめるよう工夫をしていた。そして、活動の最後にまとめの話しと今後の活動の話を、音楽なしでしていた。

活動の中にいくつかの音楽やリズムを取り入れることで、集中力を切らさずに保育者に注目して話を聞けていた。しかし、常に音楽を流しているわけではなく、音の有無をうまく使用することにより、子どもたちの気持ちの切り替えに繋いでいた。

#### (4) 給食の片付け(3歳児の事例)

3歳児の給食の片付けの場面における事例は、表2-4の通りである。

表2-4 3歳児の給食の片付けの場面(2019年5月21日)

保育者	♪「さあ、おてておてておててを出して」「パチン」	声かけ(リズム)(ピアノなし)
子ども	手を合わせる	
保育者・子ども	♪給食の歌	歌(ピアノなし)
保育者	「それでは皆さん一緒に」	声かけ
子ども・保育者	「ごちそうさまでした」	
保育者	「おふきん半分こだよ、よーいどん」	声かけ
	♪「おふきんおふきん半分こ誰が上手かな…先生に見せて」	保育者の歌(ピアノなし)(子犬のマーチのリズム)



給食の片付けでは、保育者がアカペラで歌を歌い、子どもの動きを促していた。また、食べる速さに個人差があるため、保育者は子どもの援助をしながら、次の行動がスムーズに行えるよう声かけも行っていた。ピアノがなくても、普段から使っている曲であったため、保育者の歌のみで子ども

たちが動いていた。

### 3 4歳児の音楽使用

#### (1) 自由遊び後の入室（4歳児の事例）

4歳児の自由遊び後の入室の場面における事例は、表3-1の通りである。

表3-1 4歳児自由遊び後の入室の場面（2019年5月20日）

保育者・子ども	座った状態で歌を歌う	ピアノ、歌
保育者	「立ちましょう」♪音の合図	声かけ、ピアノ
子ども	立つ	
保育者	「座りましょう」♪音の合図	声かけ、ピアノ
子ども	座る	
保育者	「立ちましょう」♪音の合図	声かけ、ピアノ
子ども	立って歌を歌う	ピアノ
保育者・子ども	朝の挨拶「先生おはようございます、お友だちのみなさんおはようございます」	声かけ
保育者	「座りましょう」	声かけのみ
子ども	座る	

保育者がピアノを弾きながら子どもたちと季節の歌を歌い始めた。身支度や排泄を済ませてクラス全員が揃ったら、立って挨拶をした。一度では反応できない子が多々いたため、効果音を付けながら何度か立ったり座ったりを繰り返した。立って朝の挨拶をしたら、効果音はなしで椅子に座ら

せていた。

#### (2) 活動前の整列（4歳児の事例）

4歳児の活動前の整列の場面における事例は、表3-2の通りである。

表3-2 4歳児活動前の整列の場面（2019年5月20日）

保育者・子ども	♪とんとん前、とんとん前、とんとん前… 手を2回たたき、前ならえを繰り返す	声かけ(リズム)、 手拍子
---------	------------------------------------------	------------------

とんとんまーえ、とんとんまーえ…とリズムよく言いながら整列をする。リズムで手をたたきながら前へならえもする。声かけのみでなく、声かけにリズムをつけることで、子どもが今何をすべきか常にわかり、音楽感覚で促しを聞けるように

なっていた。

#### (3) 主活動前の導入（4歳児の事例）

4歳児の主活動前の導入の場面における事例は、表3-3の通りである。



表3-3 4歳児主活動前の導入の場面（2019年7月1日）

保育者 子ども 保育者	♪「それではお椅子を入れて立ちましょう」 椅子を入れて立つ ♪効果音のピアノを弾く 「お友だちどうか、椅子を入れてぶつからないところに行ってみてください。体操をしますよ。」	声かけ（リズム）  ピアノ 声かけのみ
子ども 保育者	ぶつからない程度に広がる 「では屈伸からいけるかな」 「屈伸、手はお膝」♪音の合図 「せーの。」	声かけのみ 声かけ、ピアノ 声かけ
保育者・子ども 子ども	「いちにいさんし、ごろくしちはち」♪効果音 音と声かけに合わせて体操をする♪（屈伸・伸脚・アキレス腱・腕回し・前後ろ・ジャンプ・深呼吸）	声かけ、ピアノ
保育者 子ども 保育者	「ではあと気になるところどうぞ。足首とかぶらぶら」 手首足首等気になる体操をする♪効果音 「では、いっかい座りましょう、ボン」♪音の合図 「プールまでまだ少し時間があるからお歌を歌いましょう」 「櫛とか入れてない子は入れといて」 「最近覚えた歌を歌おうか。最近みんな何の探究をしているんだっけ」	声かけのみ ピアノ 声かけ、ピアノ 声かけのみ
子ども 保育者 子ども 保育者 子ども 保育者 保育者・子ども 保育者 保育者・子ども 保育者 子ども 保育者	「むし！」 「虫だね～。なんの生き物の歌がいい？」 「セミ！」「おたまじゃくし！」「ザリガニ！」 「ザリガニの歌先生歌ったことないけど歌える？」 「いくよ～」 ♪ピアノを弾く 《おたまじゃくし》《かえるの歌》の歌を歌う 「階名で歌いたい？いいよ。そしたら音の名前でどうぞ」 ♪階名で《かえるの歌》《ビーマーチ》を歌う 「ではお椅子を入れて立ちましょう」♪効果音 立って歌を歌う《てのひらをたいように》 「では、プール頑張りましょう」	      ピアノ 歌、ピアノ 声かけ 歌、ピアノ 声かけ、ピアノ 歌 声かけのみ

4歳児の主活動の導入場面では、声かけを中心に、声かけとピアノを交互に使用していた。プール前の体操時であったため、体操の一つひとつの動きに効果音をつけていて楽しそうだった。また、待ちの時間も歌を歌ったり、音の階名で歌ったり、

音楽が流れている状況であった。

#### (4) 歯磨きの場面（4歳児の事例）

4歳児の歯磨きの場面における事例は、表3-4の通りである。

表 3 - 4 4 歳児歯磨きの場面（2019年 7 月 2 日）

保育者	「さあ次のことだよ次のこと」	声かけ
子ども	給食の片付けをして歯を磨く	
保育者	「さあいいかな」	声かけ
	♪ピアノを弾く	ピアノ
	《はみがきじょうずかな》の前奏	
子ども	歯を磨く	
保育者	♪効果音「奥歯」	声かけ、ピアノ
子ども	奥歯を磨く	
保育者	「では上の奥歯どうぞ」♪効果音	声かけ、ピアノ
子ども	上の奥歯を磨く	
保育者	「時々反対も磨いてね。奥歯が一番ものが挟まります」	ピアノ、声かけ
	音楽と保育者の話を聞きながら奥歯を磨く	
	「では自分の好きなところをどうぞ」	声かけのみ
	♪《はをみがきましょ》のBGM	ピアノのみ
子ども	自分の好きなところを磨く	
保育者	♪BGMの曲が終わり、続けて効果音を弾く	ピアノのみ
子ども	効果音に合わせて歯を磨く	
	効果音が止まると手も止まる	
保育者	ピアノを弾くのをやめる	
	「ではきれいな歯見せて、ぱっ」	声かけのみ
子ども	保育者に口を開けて見せる	
保育者	「まだ汚い人がいます。いきます最後ね」	声かけのみ
	♪効果音	ピアノのみ
子ども	音に合わせて歯を磨く	
保育者	「ではお水で洗って」♪効果音	声かけ、ピアノ
子ども	コップの水で歯ブラシを洗う	
保育者	「洗って洗って～、仕上げみがき」	声かけ、ピアノ
	♪「仕上げは自分で～」（《はみがきじょうずかな》の 1 部）	歌、ピアノ
子ども	仕上げ磨きをする	
保育者	「できたかな？」♪「食べたらず磨く約束げんまん」	声かけ、歌、ピアノ
	ピアノを弾くのをやめる	
	「では、きれいな歯見せて、ぱっ」	声かけのみ
子ども	保育者に口を開けて見せる	
保育者	「よくできました～ではこのチームのお友だちブクブクしたらオープンスペースに行きます」	声かけのみ
子ども	チームごとうがいをしに行く	

4 歳児の歯磨きの場面では、保育者の声かけとピアノの BGM・効果音を繰り返す様子が見られた。子どもたちに歯を磨く場所（奥歯、反対等）を保育者が指示して、効果音をつけて楽しくけるようピアノを使用していた。子どもたちは、ピアノの効果音が早くなると歯を磨く手のスピードも上がり、効果音がゆっくりになると手もゆっくりになり、効果音がなくなると手を動かさなくなった。音がなくなると全員で手を止めて笑い合う様

子も見られた。また、効果音だけでなく、仕上げ磨きの際に歯磨きの曲を弾くことで長めに、楽しみながら歯を磨けていた。

#### 4 5 歳児の音楽使用

##### (1) 自由遊び後の集り（5 歳児の事例）

5 歳児の自由遊び後の集りの場面における事例は、表 4 - 1 の通りである。

表4-1 5歳児自由遊び後の集りの場面（2019年6月10日）

子ども	♪曲がかかったら片付け	CD(オルゴール)
保育者	「次は何をするでしょう」	声かけ
子ども	排泄を済ませて自分の席で休息	
子ども・保育者	みんなが揃うのを待つ	
保育者	「今何の音楽でしょうかね」	声かけ
子ども	「オルゴール」「おやすみだよ」	
保育者	CDを止める	
	♪ピアノを弾き、椅子を前にするよう促す	ピアノのみ
子ども	椅子を前にして座る	
保育者	♪まねっこあそび	タンバリン
子ども	保育者の真似をしてリズムをたたく	
保育者	今日の活動の話	

5歳児の自由遊び後のお入りでは、曲がかかったら片付けをする合図となっていて、保育者がCDをかけると子どもたちが曲に気づき、片付けを始めていた。片付けが始まると、保育者が次に何をするか声かけのみで促しを行っていた。また、子どもたちの話し声が目立っていたため、子どもたちが今何の時間なのか考えられるような声かけをしていた。すると、子どもたちが自分たちで何の時間か考えた発言がみられた。

つぎに、保育者がCDを止め、ピアノを弾いて

椅子を前にする促しを行っていた。その時は保育者は歌を歌わず、声かけもせずにピアノのみで促していた。その後は子どもたちを惹きつけるためにタンバリンを使い、真似っこ遊びでリズムをとっていた。

## (2) 主活動後の休息（5歳児の事例）

5歳児の主活動後の休息の場面における事例は、表4-2の通りである。

表4-2 5歳児主活動後の休息の場面（2019年6月10日）

保育者	♪CDをかける	CD（オルゴール）
子どもたち	排泄を済ませて自分の席で休息	
保育者	CDを止める	
保育者	♪ピアノを弾く	ピアノ(大きな古時計)
子ども	大きな古時計を歌いだす	
保育者	「心の声で歌ってみてください」	声かけ
子どもたち	歌を声に出さなくなる	
保育者	「優しい気持ちになりますねー」	声かけ
子ども・保育者	みんなが揃うのを待つ	
保育者	時の記念日の話	

保育者が子どもたちの様子を見て落ち着きがなかったため、CDからピアノの音楽に変えていた。すると、子どもたちは休息をし始めるとともにピアノの曲を歌いだしていた。この結果からピアノの音に大きく反応していることがわかる。その後保育者は、ピアノを弾きながら声かけも同時に行っ

ていた。話の際は何も音楽はかかっていなかった。

## (3) 給食後の歯磨き・休息（5歳児の事例）

5歳児の主活動後の休息の場面における事例は、表4-3の通りである。

表 4-3 5 歳児給食後の歯磨き・休息の場面（2019年 6 月11日）

保育者	♪CDをかける	CD(オルゴール)
子どもたち	食器を片付けて歯磨きをする	
保育者	♪CDを止めてピアノを弾く 「さあ歯ブラシ、音楽が止まる前に終わってきてください」	ピアノ 声かけ
子ども・保育者	歯ブラシを終え、休息をしながらみんなが揃うのを待つ	
保育者	♪ゆったりとした曲を弾く 「お休み素敵なのは、どこチームでしょうか」 「さあ、お休みですよ」	ピアノ 声かけ、ピアノ 声かけ、ピアノ
	ピアノを弾くのをやめる 「それでは、静かにお椅子を前に向けましょう」	声かけ
子どもたち	椅子を前に向けて座る	

5 歳児の給食後の歯磨き・休息では、オルゴール楽曲のCDのみがかけられていた。CDがかかったら歯磨きをして排泄を済ませて自分の席で休息をすると決まっているため、子どもたちはCDが流れたら歯磨きをしていた。

保育者は環境設定や子どもの援助が終わってからCDを止めてピアノを弾いていた。子どもたちはCDの時よりピアノの音楽のほうが歯磨きの時間という意識をもつことができていた。保育者の声かけで「ピアノで1曲終わるまで歯磨きをする」

という目標がたっていたため、CDの時より歯磨きを頑張る子どもたちの様子が見られた。休息の際は次の活動に関係のある《たなばたさま》や《きらきらぼし》をゆっくりしたテンポで弾いていた。

#### (4) 紙芝居（5 歳児の事例）

5 歳児の紙芝居の場面における事例は、表 4-4 の通りである。

表 4-4 5 歳児紙芝居の場面（2019年 6 月11日）

保育者B	「七夕の歌を歌ったら開くかもよ」	声かけ
子どもたち	「たなばたさま」を大声で歌う	歌
保育者B	♪ピアノで伴奏を弾く	ピアノ
保育者B	紙芝居が開かない	
保育者A	「七夕の歌1番だけきれいに歌ったら開くかもよ」	声かけ
保育者B	♪ピアノで伴奏を弾く	ピアノ
子どもたち	「たなばたさま」の1番をきれいに歌う	歌
保育者A	歌い終わったら効果音とともに紙芝居が開く	
保育者B	♪ピアノで効果音を弾く	ピアノ
保育者A	紙芝居「たなばたのおはなし」	
保育者B	♪ピアノで効果音を弾く	時々ピアノ
保育者A	たなばたの話	保育者の話

5 歳児の紙芝居の場面では、紙芝居の内容に関係する七夕の歌を紙芝居前に歌い、気持ちを七夕の気分にしていた。しかし、子どもたちが大声で歌っていたため、保育者Aが2回目はきれいな声で歌うよう声かけで促していた。

2回目は子どもたちもきれいな声で歌うよう意識して歌を歌った。すると、紙芝居が開き、「た

なばたのおはなし」が始まった。紙芝居中は、保育者Aが紙芝居を読み、保育者Bが場面に合わせて所々に効果音やBGMをつけていた。紙芝居後は、音楽を使用せずに言葉のみで話をしていた。

紙芝居中のBGMは、ピアノを弾く保育者によって曲のチョイスや曲を入れる回数が変わってくると保育者Aが教えてくれた。

5 2歳～5歳児の音楽使用について  
(保育者インタビュー)

2歳～5歳児の音楽使用について保育者の回答は表4-5の通りである。

表4-5 保育者インタビュー

保育者A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泣いている子がいるとその子の好きな音楽をかけてあげる。すると、気持ちが紛れたり泣き止んだりする。</li> <li>・朝早く来て、子ども1人だけの時は元気過ぎない曲をかけている。</li> <li>・休息の時間はオルゴール調の曲をかけている。</li> <li>・個人差があるトイレなどの待ち時間でも、季節に合っている曲や流行りの曲、子どもたちが知っている曲を流しておくことで、子どもたちが楽しみながら歌って待つことができる。</li> <li>・朝や待ち時間は『こどものうた大全集』をよく流している。</li> <li>・歯磨きの時間は『決定版!!子どものクラシックベスト』をよく流している。</li> <li>・運動会前は、運動会で使う曲だけのCDを作って流している。それにより、自由遊びの中でも子どもたちが自由に運動会の練習ができる。</li> <li>・プールの前は、水に関係のある海の音のCDをかけて雰囲気を作っている。</li> <li>・体を休ませたいときは、インストゥルメンタル（言葉のない曲）のCDを使ったりして気持ちを静められるようにしている。</li> <li>・ロッカーまで物を取りに行くときは、マーチをかけて歩くよう促している。その際、走って危なくないように、途中で音を止めたり、再度かけたりしてGO, STOPを入れている。また、物を取りに行くときグループを分けることでトラブルの回避にもなる。待っているグループも、音楽が流れているため手拍子をして楽しく待機できる。</li> <li>・保育者が歌や鼻歌を歌うことで、子どもたちが今何をする時間かわかる。</li> <li>・保育する人数が少ないと声かけで指示が十分届くため、音楽は使わない。少人数の場合は声かけの方が間違いなく指示が通る。</li> </ul>
保育者B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その年によって子どもの興味のあるものの歌を歌う。例えば雲に興味があったら《そらにらくがきかきたいな》、今年は風に興味があったから《かぜよふけふけ》を歌っている。</li> <li>・世界に興味があるから様々な国のパンが出てくる《パンのマーチ》《世界中のこどもたちが》を歌う。</li> <li>・世界に興味があるから、様々な国の音楽を取り入れてフラダンスやフラメンコ、タンゴなどを踊っている。ポーキングは子どもたちが考えてなんとなくでやっている。</li> <li>・音楽に日常的に触れていくことで、発表につながる。</li> <li>・その日の活動の内容によって音楽の量や使用する曲が変わってくる。</li> <li>・5歳児になると音感教室が始まる。シンコペーションも学ぶ。</li> <li>・子どもたちが発表会をしたいから子どもたちが日々改良していく。</li> <li>・5歳児は就学に向けて徐々に促しの音楽をなくしたり、卒園式の前には厳かな曲を流したりして就学に備える保育者もいる</li> </ul>
保育者C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音を入れることで絵本や紙芝居の良さが引き立つこともある。しかし、音は読む人を超えてはいけない。絵本や紙芝居の音は、補助的なものに等しい。</li> <li>・紙芝居は心を静める時間。お話の世界に興味をもち、その世界に入り込めるよう、子どもの世界が膨らむように読んだり、BGMを弾いたり、物語によってはBGMをつけなかったりもする。</li> <li>・給食→紙芝居→自由遊び→紙芝居→降園というように静と動の切り替えをすることが大事。</li> <li>・2歳児は特に音で行動することでスムーズに動ける。</li> <li>・子どもたちの心が豊かになったり少しでも楽しかったり、行動しやすいうように音楽を使う。</li> <li>・園で歌っている促しの歌を家でも歌っている子どもがいる。</li> <li>・園で毎日やっていることが家庭の支援になる。</li> <li>・2歳児は生活習慣を自立させるために園に来ている。そのため、遊び→電車→トイレという流れを毎回繰り返すことで、トイレに行きたい習慣が身についていく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の経験で音楽の使い方も変わってくる。</li> <li>・年齢が上がることで、音楽に対する考えが深まる。年齢が低いと子ども自身の音楽に対する考えが表面的であるが、年齢が上がるごとに深くなっていく</li> <li>・すべてに音楽を入れるわけではない。あくまで、子どもに効果的に、心に伝わりやすいように使用する。</li> <li>・声自体が音楽である。</li> <li>・5歳児になると歌が楽しくて表現の一部だとわかる。そのため長い時間取り組んだり、リズムカルに歌ってオペレッタの内容の感情を表現したりできるようになる。</li> <li>・2歳児の待ち時間はテレビを使うこともある。視覚的にも効果がある。</li> <li>・次に何をするか歌で伝えると伝わりやすい。</li> <li>・待ち時間に手遊びや歌を歌うことがあり、ピアノなしで声だけの場合もある。</li> </ul>
保育者D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間に寄り切りで音楽を使用する時と使用しないときがある。</li> <li>・給食の前後は大体歌う。</li> </ul>

保育者Aは、朝早く来た子や、泣いている子がいる場合はその子の好きな曲を流したり、流す曲の曲調を考えたりしていると述べていた。待ちの時間は、保育者がピアノを弾かなくても子どもたちが歌を歌って待てるような曲を流しているようだ。その他に、運動会の前やプールの前などは活動で使用する曲のみのCDをつくったり、海の音のCDをかけたり、インストゥルメンタルのCDを使ったりして気持ちを静められるようにしていると述べていた。また、子どもの移動の際も音楽を使用し、GO、STOPを入れて滑らかに楽しく動けるよう促しているという。人数が多いほど音楽を使用した促しを行い、人数が少なければ声かけのみで促しを行うという使い分けを語っていた。

保育者Bは、その年によって担当する子どもが変わるため、年ごとに使用する曲が変わると述べていた。また、子どもたちの興味ある物からいろいろな発展をさせて、興味に関連する曲を多く使用しているという。発表前だけ音楽を使用するのではなく、日常的に音楽に触れていることで、スムーズに発表につながるとも述べていた。5歳児は就学に向けて徐々に促しの音楽をなくしたり、卒園式の前には厳かな曲を流したりして就学に備えられる環境をつくっている保育者もいると語っていた。

保育者Cは、BGMはあくまで補助的なものに等しいと述べていた。紙芝居や絵本で音楽を使用するときは、内容を理解してから本当にその物語

に音楽が必要か考える必要があるようである。

また、2歳児は集中力が続かずすぐに飽きてしまうため、音で行動することが多いようだ。保育者Aも述べていたように、静と動（GO、STOP）を入れて、子どもの気持ちをスムーズに切り替えることもよく行うと言及している。音楽を促し目的ではなく、心が豊かになるように使用することもあるとしていた。

園で使用している歌を、子どもが家でも歌って園と同じ動きをすることもあるそうで、園での生活が家庭の支援に繋がっていることがよくわかるエピソードである。

そして、年齢によって子どもたちの音楽に対する考え方も変わり、年齢が上がるにつれて考えが深まってくると述べていた。また、促しや待ち時間にピアノを使わない手遊びや、歌を使用することもよくあると述べていた。

保育者Dは時間によって音楽を使用したり使用しなかったりすると述べていた。やはり、活動内容や活動の所要時間によって音楽の使用頻度は変わってくることがわかった。

どの保育者も子ども一人ひとりの心情や、年齢のことを考えて音楽を使用しているようであった。

#### IV 総合考察

事例およびインタビューの結果をすべてまとめると、以下の表のようになる。



表5-1 年齢別の音楽使用

			2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
自由保育			○	◎	×	◎
集団保育	朝の集り ↓ 主活動	招集	◎	◎	×	◎
		導入	◎	◎	○	△
		展開	◎	◎	×	○
		終結	◎	○	×	×
	給食	導入	◎	○	○	×
		展開	×	×	×	×
		終結	◎	◎	○	◎
	歯磨き		—	◎	◎	○
	休息		◎	◎	◎	◎
	紙芝居		◎	○	×	△

本研究では、集団生活における音楽使用について考察してきた。まとめると表5-1の通り、音楽の使用場面や使用頻度は年齢によって異なっていることがわかる。

#### a. 音楽が使われている場面（観察より）

登園時、自由保育、集団保育(入室、活動、休息、給食、歯磨き、紙芝居)など、活動の場面が変わるごとに音楽が使用されていた。

#### b. 年齢別の音楽の使い方（観察より）

自由保育の時間はどの年齢でも、活動内容や保育者によってかけたりかけなかったりしている。年齢別の違いはみられない。対して、集団保育の活動では、2歳児、3歳児が頻繁に音楽を使用しており、年齢が上がるごとに徐々に音楽の量が減少していた。

休息に関していえば、どの年齢でもオルゴール楽曲やテンポのゆっくりとしたCDがかけられていた。また、休息後の目覚めの際には保育者がピアノを弾いて気持ちが切り替えられるようにしていた。給食の場面については、5歳児ではあまり使わないが、給食を食べ終えた後に、次の活動にスムーズに移行できるよう音楽を使用していた。5歳児以外では、食べる前と食べ終えた後に「給食の歌」を歌っていた。食べている最中は、どの年齢でもBGMなどの音楽も使用していなかった。歯磨きの時間では、2歳児は、まだ歯磨きをしていなかった。3歳児と4歳児は、毎回必ず保育者の歌かピアノを使用していた。5歳児では、たま

に保育者がピアノを弾くが、ほとんどは次の活動の音楽が流れていた。

紙芝居においては、年齢別の差はなく、保育者によって使用されたりされなかったりしていた。例えば2歳児では、カエルが出てくる場面で2人の保育者の一方が物語を読み、もう一方がかえるの歌をピアノで弾くなどをしていた。しかし、保育者が一人の場合は音楽をかけられないため、音楽なしで紙芝居を読んでいた。

#### c. 行事や就学前における音楽の使い方の工夫（インタビューより）

運動会の前は運動会で使う曲のみのCDを作成し、そのCDを流したり、探究ごと曲を作ったり活動に関する音楽を自由保育で流したりしている。このように日常的に触れていくことで、自然と遊びの中で自由に練習したり学んだりすることができ、発表にも繋がる。また、5歳児は就学に向けて徐々に促しの音楽をなくしたり、卒園式の前には厳かな曲を流したりして就学に備えている。

#### d. 年齢別の音楽の使用（インタビューより）

2歳児では、集団生活の切り替えや促しのために音楽を使用している。また、3～5歳児では、日常の音楽にも探究や行事との関連をもたせた音楽を使用し、教育効果をねらっている。年齢が低いと子ども自身の音楽に対する考えが表面的であるが、年齢が上がるごとに深くなっていく。

以上のように、幼児の集団生活において音楽が



使われている場面、年齢別の音楽の使い方、行事や就学前における音楽の使い方の工夫が、明らかとなった。本論の結果からは、必ずしも、集団生活における幼児の規律化だけを目的としたものではなかった。ただ、こうした結果は、A幼稚園での一例であって、他の園では、使用の有無も含めて、違った工夫もあると思われる。今後の課題としたい。

#### <参考文献>

柳昌子・伊豆千栄美・片山順子「就学前教育における規律化のための音楽(第1報)」『九州女子大学紀要』第44巻1号、2007年、47-59頁。

伊豆千栄美・柳昌子「就学前教育における規律化のための音楽(第2報)―曲の種類と使い方について―」『九州女子大学紀要』第44巻3号、2008年、51-65頁。

#### 付記

本研究は山梨学院短期大学「人の研究に関する研究倫理審査」において研究倫理審査を受けている（承認番号2019013）